

未来へとつながっていく神戸女学院の姿

—神戸女学院創立 150 周年記念展示 II 報告—

2023 年度開催の神戸女学院創立 150 周年記念展示 I「C.B.デフォレスト展—愛と美を求めて—」に続く記念展示 II は、キャンパス移転 90 周年を記念する「神戸女学院のヴォーリズ建築—Beauty Becomes a College—」であった。2024 年 5 月 21 日から 7 月 11 日まで図書館本館 1 階ホールと 2 階閲覧室において開催され、学内外から 2,285 名の来場を得て、好評のうちに終了した。

5 月 21 日、展示開催に先立ち、11 時 20 分から図書館本館 1 階ホールにおいてオープニングセレモニーが開催された。出席者は来賓 13 名に加えて学内外関係者、教職員を含めて 51 名であった。ホールに置かれている展示物の隙間を縫うような形で参加者はテープカットが行なわれる階段の方を向いてセレモニーに立ち会った。

長谷川紹子学長室課長の司会の下、中野敬一学院チャプレンによって聖書(ヨハネによる福音書 8 章 32 節)が朗読され、学院成長の感謝とこれからの歩みへの願いを込めて祈禱が捧げられた。司会者から来賓 13 名の方々について、それぞれの関係の説明も加えての紹介が続いて、飯 謙院長の挨拶があった。

神戸女学院の校舎は似ているけれど個々に違う。その異質なものを回廊がつないでいる。異なるものが一つとなる。これがキリスト教の精神である。神戸女学院のキャンパスは建学の精神を学ぶものである。創立 150 周年を控えて、もう一度キャンパスがさらに生きていくように、この展示が建学の精神をさらに深めるきっかけとなり、新しいものと出会う転機となるようにと願っている。

次に、藏中さやか図書館長から展示品の紹介があった。特に初公開となる音楽館の彩色画は、ヴォーリズの音楽への思いが特別であったことが窺えるものである。

そして院長、館長、来賓代表の株式会社日建設計・大澤 智氏によるテープ

カットが行なわれ、黙禱をもってセレモニーは終了した。

この後來賓の方々は、図書館員の説明を受けながら、ホール、閲覧室の展示を見学した。

株式会社一粒社ヴォーリズ建築事務所、公益財団法人近江兄弟社、株式会社竹中工務店、株式会社日建設計、公益社団法人神戸女学院めぐみ会の特別協力を得て開催された本展は、移転当時 17 棟あったヴォーリズ校舎のうち現存する 12 棟（重要文化財）について設計者ウィリアム・メレル・ヴォーリズ（William Merrell Vories）による建築図面を中心に、創立 150 周年を迎え、未来へとつながっていく神戸女学院の姿を伝える展示となっている。

1 階ホールにはプロログとして山本通旧キャンパスと移転当時の岡田山キャンパスの模型を展示している。2 階閲覧室の展示は 8 部構成となっており、それぞれ旧キャンパス、幻の大蔵谷キャンパス、ヴォーリズ、貴重な原図による重要文化財のキャンパス、式典関連資料、震災、そしてこれから出来る新しい校舎をテーマにしており、過去だけでなく、生まれ変わるキャンパスも紹介している。最後には映像コーナーも設けている。

現在キャンパスでは、正門の修復工事と新校舎建築が進行している。創立 150 周年には創建当時の正門と共に新しいキャンパスの姿が見られる予定である。展示では目で見える形で神戸女学院の歴史を立体的に感じていただけたのではないと思う。また、株式会社一粒社ヴォーリズ建築事務所のご厚意による原図の出品は特に注目に値するものであり、来場者のうち学外者が 7 分の 6 を占めていたということを見ても、それを目当てに来場された方も多かったのではないかと推測される。

（佐伯裕加恵）